

## Web ふるさと子ども市場 農業問題や電子商取引についての理解を深めよう

小学校 3 年生から 6 年生・総合的学習  
甲奴町立宇賀小学校 教諭 湯浅 康司

<http://www.fuchu.or.jp/~uga/index.html>

キーワード 小学校, 3 年, 4 年, 5 年, 6 年, 総合的学習, 電子商取引, 社会科, 農業

### 企画概要

ふるさと子ども市場は、総合的な学習で栽培した農産物や特産品を、全国の学校とインターネットを使い電子取引をする。

#### 1. はじめに

本校は広島県の中山間地の位置していて、町の人口は約 3000 人である。兼業農家がほとんどだ。他地域に働きに出るものが多く、農業従事者人数も減り、地域は過疎化の傾向にある。子どもたちは一番身近である農業に関心が低く、また、機械化が進んだことにより、家庭が農業をしても手伝いで農作業をする子は少ない。こういった過疎の課題を持つ町では、経済効率が悪く商売が成り立たないので店の数も少ない。そんな中で、子どもたちの中には、自分で買物をする経験が少ない子どもも多く、農業に対する関心もうすい。

インターネットサービスにおいても同様で、十分なサービスが受けられず、地域ボランティア団体がインターネットの利用を促しても、ネットワークの広がり鈍い。

そこで、農業への関心を高め、子どもたちが、この地域で生きていくことへの展望を持ってもらいたいと願い、ふるさと子ども市場を企画した。

#### 2. 企画の目的

総合的な学習や栽培活動で同じような取り組みをしている学校どうしが、農産物を作る過程での工夫や苦労、収穫した農産物をホームページで紹介しあう中で、農業や食生活に対する理解と関心を高めたい。ホームページ上の市場作りを通して、自分たちの栽培した農産物を、交流相手校と電子マネーを用いて交換する電子商取引の仕組みやルールを考え、今後ますます利用されることが予測される電子商取引について理解を深めたい。また、多くの人の考えや、意見を聞く中で、異なった意見や立場を大切にしながら、問題解決する力を育てたい。さらに、この取り組みを地域のボランティアと共に考えたり、紹介したりする中で、中山間地域におけるインターネット利用の有効性を検証し、利用の活性化を図りたい。

#### 3. 学習の展開

##### 3.1 総合的な学習での農産物栽培

今年度、総合的な学習で、農産物を栽培し農業や食に関する学習をすることにした。グループごとに計画を立て栽培を始めた。そば、アメリカのピーナッツ、さとうきびなどいろんな種類の作物を植えた。

##### 3.2 ふるさと子ども市場の開設

ホームページ上の市場で、ルールや取引方法を考えるため、次のような事前学習をした。

- (1) 青果市場に行き実際に競のようすを見学。
- (2) インターネットを使って商品を販売しているサイトを見ての学習。
- (3) 実際に畑で収穫した野菜を使い、枝豆 1 莢の価値を基準にした通貨「エダー」を使い校内で競の体験をおこなった。

このような学習を基に、子どもたちがホームページ上の市場の取引方法を考え、地域の方の協力を得て、CGI を使った Web ふるさと子ども市場を開設した。

##### 3.3 ふるさと子ども市場を使った農産物の交換

8 グループの参加で、10 月 15 日から 11 月 16 日の期間、市場を開催した。

開催までには、各グループの紹介を書いたり、ふるさと子ども銀行へ口座の開設をしたりして準備をした。

子どもたちは、グループごとに商品のアピール文を考えたり、落札者にはおまけをつけるなどの販売方法で工夫をしたりと興味を持って出品することができた。(図 1) 入札についても、始めはやり方がわからず不安がる子もいたが、希望商品に、他のグループが入札をしてくると、競ったり、入札時期を工夫したりして楽しんで市場に参加していた。

